

平成26年度 野生動物救護実績について

自然環境保全センター（厚木市七沢）では、県民の皆様によって救護され、運び込まれた傷病鳥獣（傷ついたり弱ったりしている野生の鳥類や哺乳類）を収容して治療し、野生に帰す（放鳥、放獣）仕事を行っています。

平成26年度の野生動物救護の実績をお知らせします。

1 平成26年度の鳥類・哺乳類別救護状況

区分	種類	数(頭、羽)	数の割合
鳥類	67	464	86.7%
哺乳類	10	71	13.3%
合計	77	535	100%

参考（過去5カ年の救護状況）

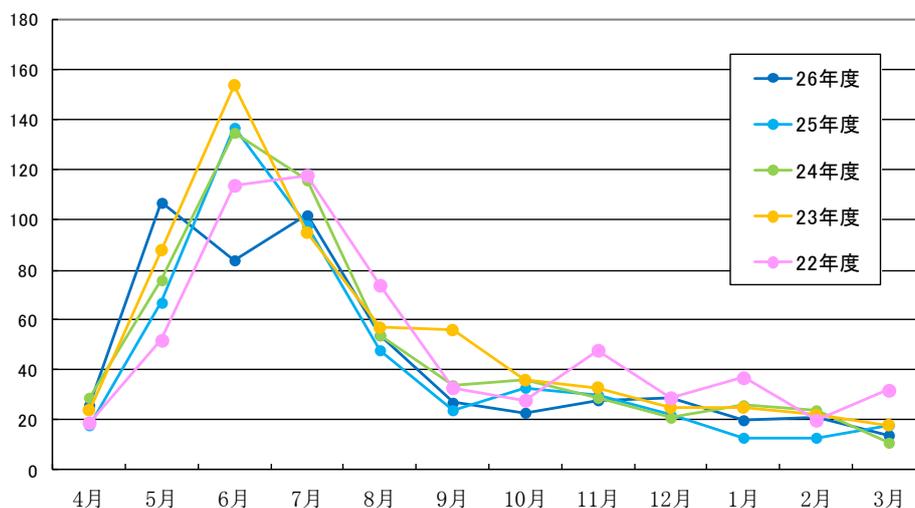
(1) 年度別救護数

年度別	平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度		平成22年度	
鳥類	464	(32)	457	(22)	496	(29)	542	(49)	509	(40)
哺乳類	71	(3)	64	(1)	95	(7)	91	(5)	95	(1)
計	535	(35)	521	(23)	591	(36)	633	(54)	604	(41)

* () は死体で持ち込まれたもので、内数

(2) 月別救護点数

(2)月別救護点数



(3) 救護数上位10種

年度別 順位	平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度		平成22年度	
	種名	点数	種名	点数	種名	点数	種名	点数	種名	点数
1	ツバメ	91	ツバメ	101	ツバメ	89	ツバメ	77	ツバメ	89
2	スズメ	81	スズメ	76	スズメ	59	スズメ	74	スズメ	85
3	タヌキ	38	キジバト	43	キジバト	40	キジバト	61	タヌキ	46
4	ヒヨドリ	37	ヒヨドリ	35	ヒヨドリ	39	ムクドリ	43	キジバト	43
5	キジバト	33	タヌキ	33	メジロ	38	シジュウカラ	41	ヒヨドリ	36
6	ムクドリ	32	ムクドリ	23	ムクドリ	28	タヌキ	39	ムクドリ	35
7	メジロ	22	シジュウカラ	21	タヌキ	28	ヒヨドリ	35	メジロ	24
8	シジュウカラ	21	カルガモ	16	ゴイサギ	25	メジロ	20	カルガモ	23
9	ハクセキレイ	19	アブラコウモリ	15	シジュウカラ	23	カルガモ	16	アブラコウモリ	20
10	アブラコウモリ	18	ハクセキレイ	11	アブラコウモリ	23	ハクビシン	16	イワツバメ	15

2 平成26年度の月別救護鳥獣一覧

区分	目名	科名	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
鳥類	キジ	キジ	キジ								1					1
	カモ	カモ	カルガモ	1		1			1	1						4
	カモ	カモ	コガモ												1	1
	カモ	カモ	キンクロハジロ								1	2				3
	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ											1	1	2
	ハト	ハト	キジバト	1		4	4	2	6	2	5	5	1	2	1	33
	ハト	ハト	アオバト			1	1									2
	ミズナギドリ	ウミツバメ	コシジロウミツバメ							1						1
	カツオドリ	カツオドリ	アカアシカツオドリ		1											1
	カツオドリ	ウ	カワウ												1	1
	ペリカン	サギ	ヨシゴイ						1							1
	ペリカン	サギ	ミソゴイ						1							1
	ペリカン	サギ	ゴイサギ	1				1			2		1			5
	ペリカン	サギ	アマサギ			1										1
	ペリカン	サギ	アオサギ				1			1						2
	ペリカン	サギ	ダイサギ						1							1
	ペリカン	サギ	チュウサギ					1		1						2
	ペリカン	サギ	コサギ					1								1
	ツル	クイナ	シマクイナ							1						1
	ツル	クイナ	オオバン							4	1					5
	カッコウ	カッコウ	ツツドリ					1	2							3
	カッコウ	カッコウ	カッコウ						1							1
	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ											2		2
	チドリ	シギ	ヤマシギ								1					1
	チドリ	シギ	アカエリヒレアシシギ						1							1
	チドリ	カモメ	ミツユビカモメ											2		2
	チドリ	カモメ	ウミネコ						1							1
	チドリ	カモメ	セグロカモメ			1						1				2
	タカ	ミサゴ	ミサゴ							1						1
	タカ	タカ	ハチクマ								1					1
	タカ	タカ	トビ			1	1	1	1	2	2					8
	タカ	タカ	ツミ		1											1
	タカ	タカ	ハイタカ								1					1
	タカ	タカ	オオタカ		2			1							1	4
	タカ	タカ	ノスリ											1		1
	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク								2	1	3			6
	フクロウ	フクロウ	フクロウ		2						2	1			1	6
	フクロウ	フクロウ	アオバズク			3	1			1						5
	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		1											1
	キツツキ	キツツキ	コガラ		3			1								4
	キツツキ	キツツキ	アオガラ						1							1
	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ			2									1	3
	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	1												1
	スズメ	カラス	カケス								1					1
	スズメ	カラス	オナガ		1				1							2
	スズメ	シジュウカラ	シジュウカラ		12	7	1				1					21
	スズメ	ツバメ	ツバメ		3	15	20	31	22							91
	スズメ	ツバメ	イワツバメ				1	5								6
	スズメ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	1	3	1	6	10	1	2	1	2	4	3	3	37
	スズメ	ウグイス	ウグイス									1				1
	スズメ	ムシクイ	メボソムシクイ							1	1					2
	スズメ	メジロ	メジロ	2	6	1	2	1				5	4	1		22
	スズメ	ヨシキリ	オオヨシキリ					1								1
	スズメ	ムクドリ	ムクドリ		22	5	3		1						1	32
	スズメ	ヒタキ	トラツグミ							1						1
	スズメ	ヒタキ	シロハラ	1								2		1		4
	スズメ	ヒタキ	ツグミ		1									1		2
	スズメ	ヒタキ	ジョウビタキ							1	1					2
	スズメ	ヒタキ	イソヒヨドリ			1	1						1		1	4
	スズメ	ヒタキ	キビタキ							1						1
	スズメ	ヒタキ	オオルリ							1						1
	スズメ	スズメ	スズメ	3	25	23	22	6	2							
	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	2	5	1	8	3								
	スズメ	アトリ	カワラヒワ		3	1										
	スズメ	アトリ	シメ											1		
	スズメ	ホオジロ	ホオジロ								1					
	キジ	キジ	コジュケイ		1											
鳥類	計	67種		17	103	72	88	53	25	19	24	22	14	15	12	464

	目名	科名	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
哺乳類	翼手	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	1		1	12		1					2	1	18
	翼手	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ							1						1
	霊長	オナガザル	ニホンザル			2						1				3
	兎	ウサギ	ノウサギ				1									1
	げっ歯	リス	ムササビ			1					1					2
	食肉	イヌ	タヌキ		7	2	4	1	1	1	2	3	6	6	4	38
	食肉	イヌ	キツネ				1									1
	食肉	イタチ	アナグマ	1	2	1										4
	食肉	ジャコウネコ	ハクビシン			1										1
	偶蹄	シカ	ニホンジカ			1				1						2
哺乳類	計	10種		9	4	12	14	1	2	4	4	7	6	6	2	71

総計		77種		26	107	84	102	54	27	23	28	29	20	21	14	535
----	--	-----	--	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

3 平成26年度の特徴

(鳥類)

- ツバメ、スズメ、ヒヨドリ、キジバト、ムクドリ等が上位を占めており、例年とほぼ同様の顔ぶれです。
- 珍しい例としては、平成26年9月にアカエリヒレアシシギ、ミゾゴイが保護された。10月には、コシジロウミツバメが台風18号の影響で、2月に海洋で生活するミツユビカモメが相模原市の内陸部で保護されています。また、県レッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に分類されているオオコノハズク、ハチクマ、ハヤブサも保護されています。



アカエリヒレアシシギ



ミゾゴイ

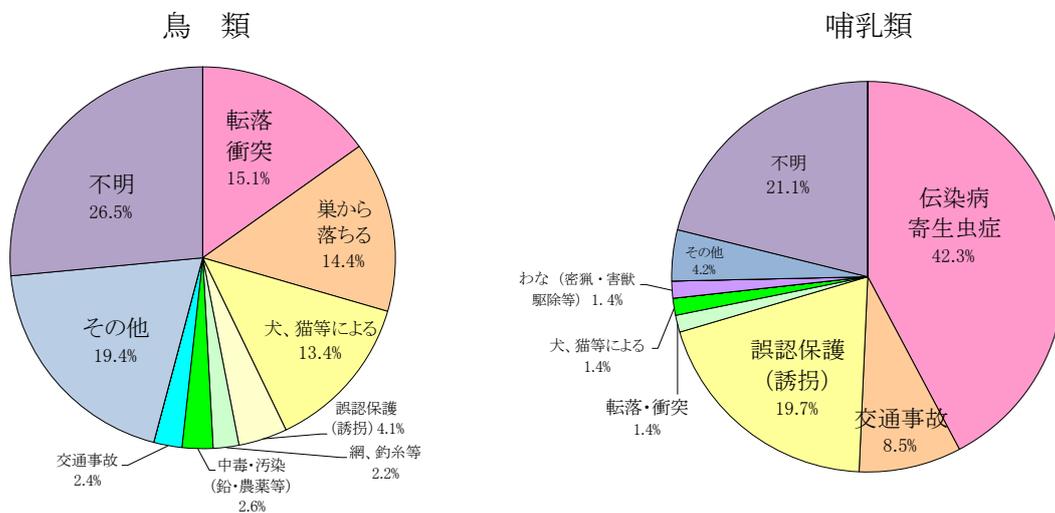


コシジロウミツバメ

(哺乳類)

- タヌキが38頭と最も多く、鳥類を含めた救護数でも上位3位と全体的にも多かった。タヌキの保護原因は、疥癬症（ヒゼンダニが原因で起こる皮膚病）によるものが71.1%（27/38頭）であり、昨年度66.7%（22/33頭）よりも増加した。

参考（平成26年度の保護原因）



4 ボランティアの活動

- ・ 当センターには、野生動物の飼養や治療・リハビリの補助、環境教育や普及啓発活動等を行っている多くの野生動物救護ボランティアの方がおります。
- ・ 野生動物救護ボランティアには、一般ボランティア（注1）、短期飼養ボランティア（注2）及び長期飼養ボランティア（注3）の3種類あります。平成26年度の一般ボランティアの活動人数は年間延べ1,036人で、平成19年度以降、毎年1,000人を超える方々にご参加いただいています。また、短期・長期飼養ボランティアに飼養を依頼した野生動物の数は25件になります。

注1 一般ボランティア

当センターに保護されている鳥獣の世話や救護された動物のデータ解析、学校等へ出向いての環境教育、普及啓発活動などを行っていただいております。

注2 短期飼養ボランティア

毎年5月から8月くらいまでの間、ツバメ、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバトなど、主に巣立ち前の野鳥のヒナ等の世話を30日程度行っていただいております。

注3 長期飼養ボランティア

翼が折れているなどの理由により野生に返せない鳥獣を、生涯にわたり飼養を行っていただいております。

参考（過去5カ年のボランティア活動状況）

(1) ボランティア登録状況

年度別	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
ボランティア登録数	256	245	193	210	248

*: ボランティア登録数は、各年度の3月31日現在

(2) 一般ボランティアの月別活動状況

(延べ人数)

	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
活動延べ人数	1,036	1,083	1,364	1,710	1,310

(3) ボランティアへの飼養依頼

年度別		平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
鳥類	短期	17	7	12	29	22
	長期	6	3	7	15	19
哺乳類	短期	2	3	1	11	14
	長期	0	1	1	1	2
合計	短期	19	10	13	40	36
	長期	6	4	8	16	21
総計		25	14	21	56	57

* 各年度依頼分のみ掲載